令和２年度　都城市立有水小学校　学校自己評価・学校関係者評価　評価書

〈　評価方法～4段階（A：期待以上　B：期待どおり　C：期待を下回る　D：改善を要する）　〉

	具体的取組事項		アンケート調査結果（A…とてもよい　B…よい　C…もう少し　D…よくない　（単位は%））					学校自己評価（校長）評価（前年比）	学校自己評価（校長）評価内容	学校関係者評価（学校運営協議会）評価	学校関係者評価（学校運営協議会）評価内容
知育の充実	① 学力向上と授業改善	職員	A70	B30				職員 3.53 (+0.34)	①について　職員は学力向上を目指した授業改善を日々実施しており高評価となっているが、児童・保護者とも、学習内容の理解や学力向上の実感がないことが分かる。どんな力を身に付けるために学習しているのかを児童が分かるように「めあて」と「まとめ」の整合性を図り、、学習内容について「わかった、できた」という達成感が得られるように、学習の振り返りで「見届け」を確実にして、今後さらに授業改善を進めていく必要がある。 ②について　保護者からは「もう少し」「よくない」の割合が高い。「家庭学習の手引き」や「家庭学習ガイド」を活用して、家庭との連携を図っているが、まだまだ　職員の意識改革を行い、一人一人に応じた学校から保護者や児童へのアプローチをしていく必要がある。 ③について　目標の一人平均10冊以上は達成することができた。また、本年度より「家読」も推進し、児童の読書意欲や読書習慣は徐々に身に付いてきていると感じる。　今後も、児童に読書の習慣が身に付くように、読み聞かせや図書室の積極的な利用、家読の推進等を継続的に実施していく。	平均 3.25	①②③とも保護者のC及びDの評価が多いのが気になる。職員の更なる取組をお願いしたい。 ①について、学力向上については保護者の目から見て、すみずみまで教育が行き届いていると感じる。 ①について、「分かった、できた」が勉強の楽しみにつながると思うので、一人一人に合った学習をお願いしたい。 ①については、職員の更なる授業改善への取組をお願いしたい。 ②については、保護者の立場から見れば家庭学習は、先生方の努力に感謝しながら、親と子と前向きにがんばるしかないと考える。職員と家庭の連携をさらに深める必要がある。 ②について、職員と保護者で積極的に連携し良い取組ができれば、間違いなく更なる学力向上につながると思う。 ②について、与えられた課題（宿題）以外を自ら進んでするようになるとよい。 ③については、目標の一人平均10冊以上をクリアできたのはすばらしい。 ③について、保護者の意識次第で大きく変わると思う。
		保護者	A25	B58	C15	D2		保護者 2.94 (−0.2)			
		児童	A52	B40	C8			児童 3.21 (+0.05)			
	② 家庭学習の推進	職員	A29	B71				平均 3.23 (+0.07)			
		保護者	A22	B44	C26	D6					
		児童	A55	B38	C7						
	③ 読書活動の充実	職員	A67	B22	C11						
		保護者	A27	B45	C22	D5					
		児童	A52	B28	C12	D8					
徳育の充実	④ 道徳教育の充実	職員	A14	B86				職員 3.29 (+0.1)	④について　道徳が教科となり、職員の研修も進めながら計画的に実施している。「考え、議論する道徳」を学年に応じて実践できている。参観日の授業でも「命」に関する授業を実施してきた。児童の意識として、「学習したことを生活の中で実践する」ことができていないと感じているので、様々な場面での振り返りや賞賛を実施していく必要がある。 ⑤について　あいさつや会釈ができている児童が多い。児童が「ありみず」の合い言葉を覚えて意識するようになってきている。正しい姿勢（立腰）や整理整頓についてはまだまだなので、今後も指導を継続していく。	平均 3.25	④について、道徳教育の児童の評価が低いのが少し気になった。 ④について、教科となったことにより、職員のA評価も増え、計画的に進められていることがうかがえる。 ④について、徳育は学校だけの問題ではなく、家庭の教育も重要なので、日常生活の中で親子共に考える機会を作っていくことが大切である。 ④について、道徳教育は将来子どもたちがどう生きていくのかについて必要な教科です。A評価に近づくようにがんばってほしい。 ④について、秒進分歩の現代でも人の道やきまりを守れる人格形成が大事だと思う。 ⑤について、挨拶も気持ちよく、礼儀正しい子どもが多いと感じる。 ⑤について、CD評価が減っているのは、合い言葉「ありみず」の成果と思われる。
		保護者	A37	B57	C6			保護者 3.18 (+0.04)			
		児童	A54	B25	C19	D2		児童 3.28 (+0.16)			
	⑤ 基本的な生活習慣の定着	職員	A40	B60				平均 3.25 (+0.09)			
		保護者	A24	B64	C13						
		児童	A43	B45	C10	D2					
体育の充実	⑥ 一人一人に応じた体力の向上	職員	A33	B56	C11			職員 3.5 (+0.31)	⑥について　本年度は体力テストは実施したが、県全体としては実施していない。昨年度との比較ができないが、朝の時間の柔軟性を高めるストレッチ運動や運動に関する器官を鍛えるロコモ体操、体育の授業の初めに行う運動の継続により、保護者も児童も昨年度よりも体力が向上しているという実感をもっている。一人一人の体力向上を目指し、今後も継続していきたい。 ⑦について　本年度は新型コロナ感染拡大防止の対策を学校一斉に実施していることもあって、児童も保護者も健康に関する意識が高まっている。早寝早起きや歯みがきの習慣について気になる児童がいるので、全体的な指導を含めて指導を充実させていく必要がある。	平均 3.38	⑥について、個人の体力差は当然あるが、持久走大会を参観して、個人差が大きいことを痛感した。しかし、子どもたちは皆大変がんばっていた。 ⑥について、コロナ禍でも家庭内でできる運動を保護者にも伝えてもらいたい。 ⑥について、体力テストは県との差が分からないが、アンケートの結果を見る限りでは、体力の向上を感じる。 ⑥について、外で元気に遊ぶ子どもの声が年々聞こえてこなくなっているのが寂しい。 ⑦について、コロナ禍での児童の健康管理に先生方が努力されているのがよく分かった。 ⑦について、健康に対する児童の意識の高まりが分かり、すばらしいと感じる。
		保護者	A51	B36	C13			保護者 3.32 (+0.18)			
		児童	A65	B22	C12	D2		児童 3.53 (+0.27)			
	⑦ 健康に関する基本的な生活習慣の定着(感染防止対策)	職員	A80	B20				平均 3.45 (+0.29)			
		保護者	A45	B36	C18						
		児童	A65	B27	C8						
ふるさと・幼小中一貫教育の推進	⑧ 幼小中一貫教育の推進	職員	A56	B44				職員 3.57 (+0.38)	⑧について　コロナ禍で交流学習が年度初めにできないこともあったが、感染防止対策をとりつつ、スポーツフェスタをはじめとする幼稚園や中学校との交流を実施することができた。今後も、感染防止対策を取りながら、さらに計画や内容を工夫改善していく。 ⑨について　生活科や総合的な学習の時間をはじめとして、ふるさと有水に関わる学習を実施し、自分たちの住む有水のよさを児童が実感することができた。80%の児童が「有水が大すき」と答えている。「まあまあすき」と合わせると、98%の児童がふるさとへの愛着心が育ってきていると言える。今後も学校・保護者・地域が1つになって進める学習を計画・実践していきたい。 ⑩について　自信とやる気と誇りの育成のため、本年度は報道（テレビや新聞、インターネット等）や安心安全メール、ホームページ等で学校の情報を発信することができた。地域の方からも多くの賞賛をいただいた。また、担任からの定期的な通信の発行により、児童のよさを家庭に伝えることができた。今後も学校からの情報発信に努めていきたい。	平均 3.63	⑧について、コロナ禍で幼小中一貫教育が計画どおりできなかったことはやむを得ない中で、スポーツフェスタは大成功であった。 ⑧について、スポーツフェスタやゴミ拾い等を中学生と活動できることが楽しそうで、ほのぼのとしている。それ以上に、思いやりの心などプラス面が大きいと思う。 ⑨について、ふるさと有水のよさを児童が実感し、「有水大好き」と答えてくれたことに安堵した。児童のふるさとに対する認識の高さがうかがえる。 ⑨について、自分の子どもも有水が好きと言ってくれる。 ⑨について、職員のC評価が気になるが、児童数が減少する中、有水のよさをさらに伝えてほしい。 ⑩について、テレビの報道から担任に通信まで、地域の方や県内の方々に、有水小のすばらしさを知っていただいたことは、どこの学校関係者からも多大な評価をいただいたと考える。 ⑩について、学校からの情報発信は大変ありがたい。地域としても高く賞賛する。 ⑩について、学校をアピールすることが、児童の自信ややる気に大いに役立っていると思う。 ⑩について、コロナ禍でもコロナに負けない気持ちを強く感じた。何もしない選択ではなく、PTA新聞や学校への協力など、保護者からの発信ももっとあるとよい。
		保護者	A67	B30	C4			保護者 3.11 (−0.03)			
		児童	A68	B28	C2	D2		児童 3.55 (+0.39)			
	⑨ ふるさとを生かした教育の充実	職員	A22	B67	C11			平均 3.41 (+0.25)			
		保護者	A51	B42	C4	D4					
		児童	A80	B18	C2						
	⑩ 自信とやる気と誇りの育成（情報発信）	職員	A100								
		保護者	A62	B31	C7						
		児童	A65	B27	C7	D2					

学校関係者評価を踏まえた学校の今後の取組・方策	1　知育の充実については、「家庭学習の手引き」や「家庭学習ガイド」を更に活用しやすくするための改訂と、意識を高められるような児童や保護者へのアプローチの在り方についての協議を行い、より積極的な保護者との連携を進めていく。また、児童一人一人に合った指導方法について研究を深め、児童の学力向上につながる授業改善を進めていく。「読み聞かせ」や「家読」を推進し、読書習慣を身に付けさせていく。 2　徳育の充実については、児童の日常的な実践を目指す道徳科の在り方を追究し、一歩進めた道徳教育を推進していく。また、あいさつを始めとする基本的な生活習慣や、評価の低かった「立腰」及び「整理整頓」について、合い言葉「ありみず」の活用や日常的な指導により徹底していく。 3　体育の充実については、コロナ禍を乗り切るための感染防止対策の徹底と習慣化や健康を意識した体力向上のための取組を推進していく。家庭との連携に重点をおき、自分で健康管理ができる児童の育成に努める。 4　ふるさと・幼小中一貫教育の推進については、有水ならではの幼小中一貫教育の取組の推進・改善を図っていく。また、児童がいつまでも「ふるさと有水」を愛するような取組を保護者や地域と連携して行っていく。さらに、本年度と同様に、メディアや通信、ホームページ等を活用して情報発信を積極的に行い、児童の自信とやる気と誇りの育成に努めていく。